

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0971000328		
法人名	社会福祉法人 邦友会		
事業所名	おおたわらマロニエホーム		
所在地	栃木県大田原市北金丸2600番地8 (電話) 0287-20-2505		
評価機関名	栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年8月22日	評価確定日	平成19年9月18日

【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人 7 人	常勤8人(うち兼務1人), 常勤換算5.6人 常勤7人(うち兼務1人), 常勤換算4.9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋ALC造り 2階建ての2階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代—実費 ・おむつ代—実費 ・水光熱費—@650円×日数 ・共益費—@200円×日数
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食 350 円 夕食 500 円 または1日当たり	昼食 400 円 おやつ 150 円	

(4) 利用者の概要(平成19年7月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 2 名	女性 15 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名
要介護3	3 名	要介護4	4 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85.1 歳	最低 71 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国際医療福祉大学クリニック、重症心身障害児施設なす療育園、国際医療福祉大学病院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国際医療福祉大学構内に設置されている当ホームは、立地の利を活かして隣のクリニック、大学生、デイサービスセンター、障害児・者福祉施設との連携のもと、グループホーム単体では難しい医療的・福祉的対応の充実したホームである。日々の生活の中で、入居者の意向を第一に、「自分の家族であればどう接して欲しいか?」と考えながら入居者により良いケアができるよう熱意を持って関わってくれる職員がそろっている。入居者の生活も、自宅にいた頃と変わらない生活が維持できるよう工夫され、農業が得意な方にはリビングの前にある畑への関わり、調理が得意な方には食事づくりへの関わりなど、入居者個人個人の人柄に合わせたケアを実践している。また、地域との交流についても積極的に展開し、月日を重ねるごとに地元住民、自治会と自然な交流の持てる環境となってきた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善点は、話し合っ改善に取り組んでいる。例えば、地域との交流は、まず気軽に来てもらえる関係づくりから始めている。夜間の入浴を希望する方には、せめて夕方入浴にするなど対応している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全職員が自己評価したものを集約してまとめている。管理者はホーム運営を職員とともに考える機会として評価を前向きに捉えている。管理者が理解できていると思ったことでも、職員がまだ不十分と考え、成年後見制度など学習会を行った事例もある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、運営状況の報告のほか、地域包括支援センターの職員や地元自治会長など出席者との積極的な意見交換がなされていることがうかがえる。会議の中で自治会長が地域住民としての関わり方を聞いている。ホームとしては、飾らない身近な交流を期待していることを伝えている。その結果、地域住民がホームを訪れ、入居者の散歩に付き添ってくれるなどの交流が始まっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や行事でホームを家族が訪れたときに意見や要望など尋ねるようにしている。例えば、職員の名前がわからないとの意見を受けて名票をつけるなど対応している。苦情・要望をホーム内で受け付ける窓口のほか、法人の全施設を対象に苦情等の解決にあたる委員会が設置され、法人としてもサポートしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の女性達がボランティアで散歩の手伝いをしてくれたり、道の駅に出荷している野菜が余ると分けてくれるなど、地域との付き合いが始まっている。更に、商工会議所などの取り組みである「唐辛子による町おこし」「とうがらしの郷」の復活を目指した事業に協力して、入居者は「とうがらしのもぎ取り」を行うなど地域との関係が発展している。また、今後、地元消防団の方々に訪問してもらい、防災についても地域との連携が図れるようにしているところである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の一つに「地域との交流によって豊かな人間性を醸し出す」と地域との関係性を謳っている。具体的には家族との関係性を保つこと、友達が訪ねて来ること、友達を訪ねることなどで、関係性の継続、地域での生活の継続性を支えるための支援を目指そうとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、基本理念と運営方針を唱和することで支援のあり方を確認している。更に管理者は、職員に具体的に支援のあり方を話している。例えば、「支援者のペースでなく、歩くペースも、食事のペースも入居者のペースで行うように」との具体的な言葉で話し、職員はケアの実践の中で実行し、入居者の話を聞くこと、入居者を待つ大切さを理解している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	国際医療福祉大学の構内にあるグループホームのため、学生ボランティアとの関わりはあったが、地域との関わりが少なかった。しかし、運営推進会議に地域の方に入ってもらったことをきっかけに、自治会の女性達がボランティアで散歩の手伝いをしてくれたり、道の駅に出荷している野菜が余ると分けてくれるなど地域との付き合いが始まっている。更に、商工会議所などの取り組みである「唐辛子による町おこし」「とうがらしの郷」の復活を目指した事業に協力して、入居者は「とうがらしのもぎ取り」を行うなど地域との関係が発展している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で指摘された改善点は話し合い改善に取り組んでいる。例えば、地域との交流は、まず気軽に来てもらえる関係づくりから始めている。夜間の入浴を希望する人には、せめて夕方の入浴にするなど対応している。今回の自己評価は、全職員が自己評価したものを集約してまとめている。管理者は、ホーム運営について職員とともに考える機会として評価を前向きに捉えている。管理者が理解できていると思ったことでも、職員がまだ不十分と考え、成年後見制度など学習会を行った事例もある。		

おたわらマロニエホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、運営状況の報告のほか、地域包括支援センターの職員や地元自治会長等の出席者との積極的な意見交換がなされていることがうかがえる。会議の中で自治会長が地域住民としての関わり方を聞いている。ホームとしては、飾らない身近な交流を期待していることを伝えている。その結果、地域住民がホームを訪れ、入居者の散歩に付き添ってくれるなどの交流が始まっている。		地域との交流を広げるといった課題に対して、運営推進会議の場を活かして、地元の自治会長に働きかけている。今後も運営推進会議を有意義な意見交換の場とすることが期待できる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的には、市の担当者と話し合う機会は運営推進会議以外ほとんどなく、行政と行き来する関係はまだつくられていないが、市町村と連携して質の向上を図ることを前向きに捉えている。	○	市が主催する地域ケア会議などに参加し、サービスを実施する現場で明らかになった課題を話し合い、サービスの質の向上に取り組まれることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回、ユニット別に発行される「行事・外出の様子」「行事・外出の予定」と「マロニエホーム便り」、「マロニエホームからのお知らせ」、「入居者別活動の記録」が一人ひとりに渡されることで、家族は事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、行事予定などを知ることができる。金銭管理を支援した報告として、金銭出納帳の写しをお便りに同封している。	○	ホーム内の変化、特に入居者にとって馴染みの関係の変化となる職員の異動などは、家族にとっても知っておきたい情報なので、家族にもお知らせすることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事で家族がホームを訪れたときに意見や要望などを尋ねるようにしている。例えば、「職員の名前がわからない」との意見を受けて名票をつけるなど対応している。苦情・要望をホーム内で受け付ける窓口の他、法人の全施設を対象に解決にあたる委員会が設置され、法人としてもサポートしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年、法人内に新設された特別養護老人ホームに職員が異動したことで入居者が寂しがったが、同一敷地内であったため、職員に会いに向いたり、異動した職員が帰りに顔を出してくれるなどで入居者のダメージを少なくしている。離職が最小限に抑えられている要因として、職員が「研修体制が充実していること」を挙げていることは特徴的である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画とともに年間教育計画も立てている。年間教育計画の理念・方針のもと教育目的・方針を立て、研修の全体像を明確にし、内部年間計画、外部研修が組み込まれている。これらの教育計画は、法人内の委員会で検討されている。研修の報告はレポートとして記録に残され、職場で回覧されている。パート、常勤の区別なく全員が研修を受けることができるようになっていく。内部研修は、同一敷地にある大学や法人の専門職の協力で実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の勉強会等への参加を通してのホーム同士の交流には、管理者だけでなく職員も交代で参加している。また、他の施設からの研修を受け入れ意見交換する中から、サービスの質の向上の取り組みを見いだしている。職員にとっては同じ課題を共有でき、サービスの改善の参考になっている。	○	他施設からの研修の受入だけでなく、他の施設を知るための研修に取り組み、サービスの質の向上をさせたいとのことなので期待したい。また、グループホーム協会主催の研修会で取り上げられた「センター方式」のアセスメントを検討しているが、事前の話し合いを十分に行い、職員だけでなく家族も巻き込んで取り組むことにも期待したい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談の段階では家族にグループホームの支援の内容などを説明し、ホームを見てもらい、家族が納得してから、本人に見学してもらう手順となっている。見学時には、本人の得意とすることや和むような話題をあげながら、ホームに馴染めるよう、安心してもらえるような対応を心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	外部評価の訪問調査時の限られた見学ではあったが、食事の用意は味付けまで入居者を中心に行われ、入居者同士のいたわりが生活の中で見られ、それを職員がサポートしている姿があり、ともに暮らす者としての支え合う様子が見られた。入居者の得意とする盆栽の手入れ、菜園の段取りから耕作、ぬか漬、たくあん、干し柿の作り方など入居者の得意とすることを職員はよく知っていて、「(入居者を)頼りにしている」という言葉に、支え合う関係を築いていることがうかがえた。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向や意見を第一と考えて、常に入居者本位で考えるように務めている。アセスメントシートを使い入居者の希望の把握を行っている。職員は常にプライバシーの配慮を心がけ、入居者に接するときには「自分の家族だったらどう接して欲しいか？」と振り返りながら対応するよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の希望に沿ったプランを作成するため、作成のプロセスの中で、計画作成担当者は入居者の担当職員、本人、家族に話を聞きながら計画を完成させている。自宅にいた頃していたことなどを聞きとったり、ホームに来てからしていることなどを具体的に計画に反映させて入居者本意の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成担当者及び担当職員は、適時計画の見直しを行うために日々意見交換をして、計画に活かしている。計画に載せていない事項が生じた時は職員同士で話し合い、支援経過に記録しながら適時対応をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	大学の敷地内に設置されている利点を活かし、大学生との交流を散歩の時などに日常的に行っている。また、1階がデイサービスセンターとなっているので、行事の時などには連携して活動している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に通院は家族にお願いしているが、通院時に家族が困らないように通院用の情報シートを作成して家族に渡すなど細かい配慮がなされている。希望により敷地内にあるクリニックをかかりつけ医として変更した場合にはスムーズに受診できるよう関係づくりに配慮している。クリニックからの往診も受けることができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営規程、重要事項説明書、契約書に示してある通り、重度化や終末期の対応については家族と相談しながら、その時の状況に合った他事業所と密に連携を図り対応していくことを事業所の役割と考えており、それを方針としている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの誇り、プライバシーに配慮した対応を徹底している。トイレへの誘導一つをとっても他の入居者にトイレに行くことが分からないように声かけに工夫をしたり、何か失敗をしてしまったときも本人に失敗と悟られないよう対応に工夫をしている。個人情報保護については、記録のホーム外への持ち出しを禁止している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝散歩に出掛けているが、散歩したくない方や一人で散歩したい方には個々に対応し、気持ちよく自分の思っている通り過ごすことができるよう個別の配慮を行っている。また、訪問調査時にもふらっと一人を外に出た入居者を傍らから見守り、帰って来るのを確認しながら声をかけるなど、入居者個人に合った対応を的確に実行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を献立に反映させるため、買物では2日分だけ購入したり、事前に献立を作って栄養士から指導してもらおうとその時々々の献立の希望を反映できないとの配慮から事後報告で指導してもらい、次の献立づくりに反映させるなど、徹底して入居者の意向への配慮に取り組んでいる。調理の準備などは、得意な入居者をお願いしたり、また入居者も自分の役割として積極的に調理に参加していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3日～4日、11時から16時の時間帯で行われている。入居者の希望にかなうよう、個人個人の入りたい時間に沿って入浴の支援をしている。	○	できる範囲の中で最大限入居者の希望を反映させるよう入浴の支援を行っているが、今後、夜間の入浴や毎日の入浴の希望が出た場合にも柔軟に対応していくことを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の得意な入居者に積極的に作ってもらったり、昔、農業を営んでいた入居者にベランダにある畑の作付け計画や苗の購入、畑作業等を率先して行ってもらい、職員も補佐的に関わるなど入居者個人個人の力を存分に発揮してもらっている。最近では地元の商工会議所などの取り組みである「唐辛子による町おこし」事業への協力で、入居者は「とうがらしのもぎ取り」の活動を職員と話しながら行った。その報酬でお食事会をするなど十分に楽しんだ。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩だけでなく、大学の購買やレストランに行ったり、近くのスーパーへの買い物に出掛けている。さらに毎週外出を行っている。ホーム便りで家族外出予定、外出の報告等を家族に定期的に知らせている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵を常に開けており、入居者の外出があればドアに付けられているチャイムが鳴るようにしてある。また、一人で外に出ても安易に声をかけることはせず、少し歩きたい入居者には一緒に歩いたり、一人で歩きたい入居者は見守るなど個別の対応をしている。		

おたわらマロニエホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回防災訓練を実施しており、1階のデイサービスセンターとも連携を図っている。また年2回は消防署にも協力を依頼して防災対策に努めている。夜間帯を想定した訓練を取り入れるなど内容にも工夫をしている。今後、地域との連携を図れるよう、地域の消防団に連絡して訪問してもらえることになっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の評価については毎月栄養士の指導を受け次月の献立に反映している。また、「水分、排泄チェック表」を職員の見やすい場所に備え付けてあり、常に入居者一人ひとりの毎日の水分摂取量を把握し、不足しているようであれば適時対応するような体制が整っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように花を飾ったり、畑に花を植えたりしている。生活空間が不快にならないようにテレビや音楽の音量、光の加減にも配慮している。今の時期は寝る前は少し涼しくして、心地よく眠りにつけるよう細かな配慮をしている。また、入居者がふと不安になってしまった時は職員が傍らに座って話を聞いたり、寄り添ったりして心地よい環境をつくっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は備え付けの物ではなく、入居者が安心して過ごせるよう以前使っていたダンス等、自分の馴染みの物を持ってこられるよう家族に話し、入居の時に対応してもらっている。また、自室には家族の写真などが飾られ、本人が笑顔で眺めている姿が見受けられた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。